

近年、集中豪雨や台風等による被害が相次いで発生しており、また、雨の降り方が局地化、集中化、激甚化しています。これらを踏まえ、国土交通省は平成27年1月に『新たなステージに対応した防災・減災のあり方』をとりまとめました。これを受けて、交通政策審議会気象分科部では、気象庁が防災・減災のために取り組むべき事項について審議を行い、同年7月に気象庁への提言として『新たなステージ』に対応した防災気象情報と観測・予測技術のあり方』をとりまとめました。

【交通政策審議会分科会の提言】

防災気象情報の改善に向けた2つの基本的方向性

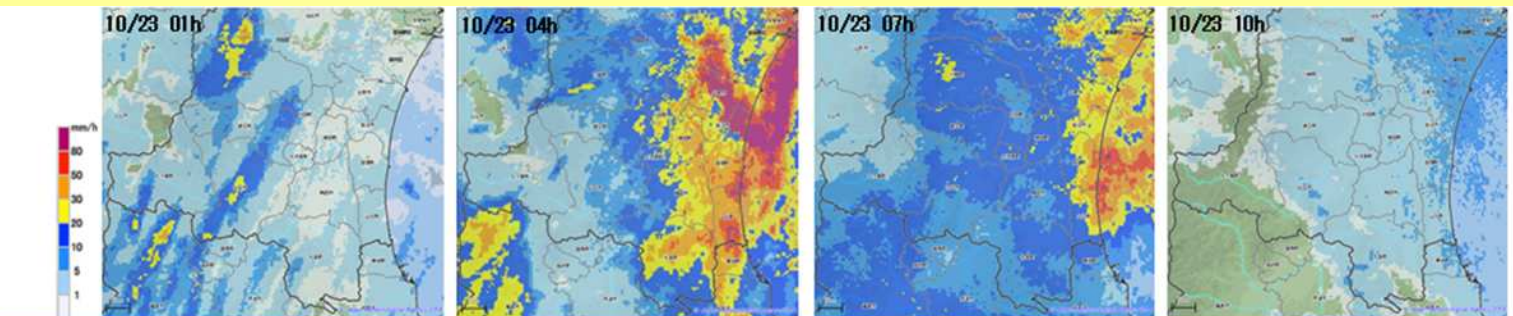
- 社会に大きな影響を与える現象について、可能性が高くなるとも発生のおそれを積極的に伝えていく。
- 危険度やその切迫度を認識しやすくなるよう、分りやすく情報を提供していく。

この提言を受けた気象庁の取り組みとして、平成29年度出水期から、大雨・洪水警報及び大雨特別警報を改善するとともに、「警報級の可能性」などの新しい気象情報や「大雨警報（浸水害）の危険度分布」及び「洪水警報の危険度分布」の提供を開始しています。

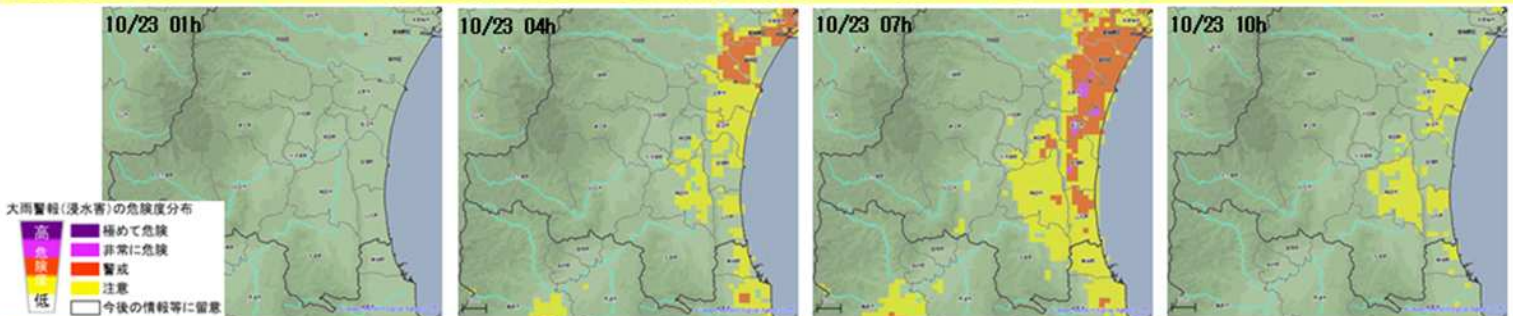
種別	警報級の可能性							
	24日		25日		26日	27日	28日	29日
	夕方まで	夜～朝方	朝～昼速く	遅く				
大雨	[高]	[中]	[中]	[中]	-	-	-	-
大雪	-	-	-	-	-	-	-	-
暴風（暴風雪）	-	-	-	-	-	-	-	-
波浪	-	-	-	-	-	-	-	-

「警報級の可能性」の表示例

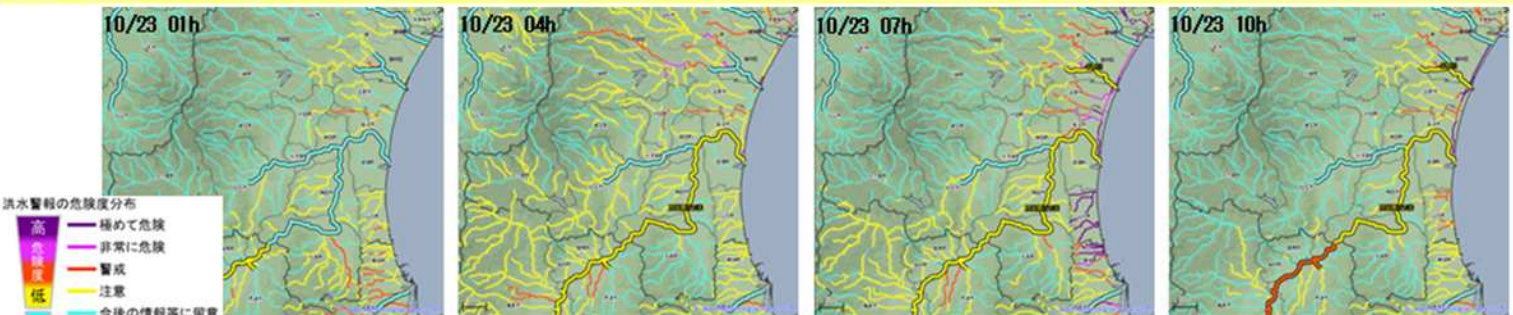
大雨警報（浸水害）及び洪水警報の危険度分布等表示例_平成29年台風第21号（10/23）



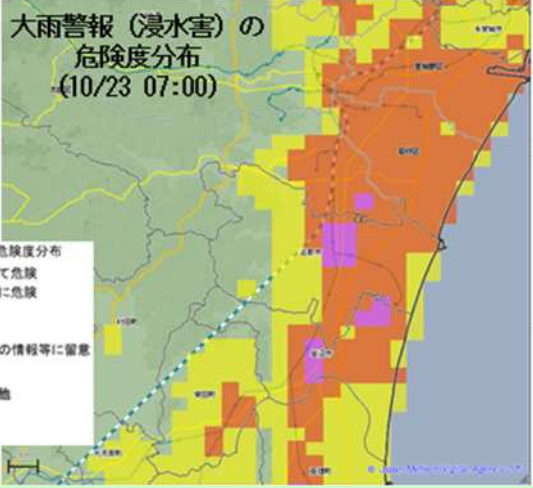
高解像度降水ナウキャスト ⇒ 雨雲の移動・発達の確認や予測（5分毎に1時間先まで予想）にご利用ください。



大雨警報（浸水害）の危険度分布 ⇒ 短時間強雨による浸水害発生の危険度の高まりを面的に確認できます。



洪水警報の危険度分布 ⇒ 中小河川（水位周知河川またはその他の河川）のどこで洪水害の危険度が高まるかを面的に確認できます。



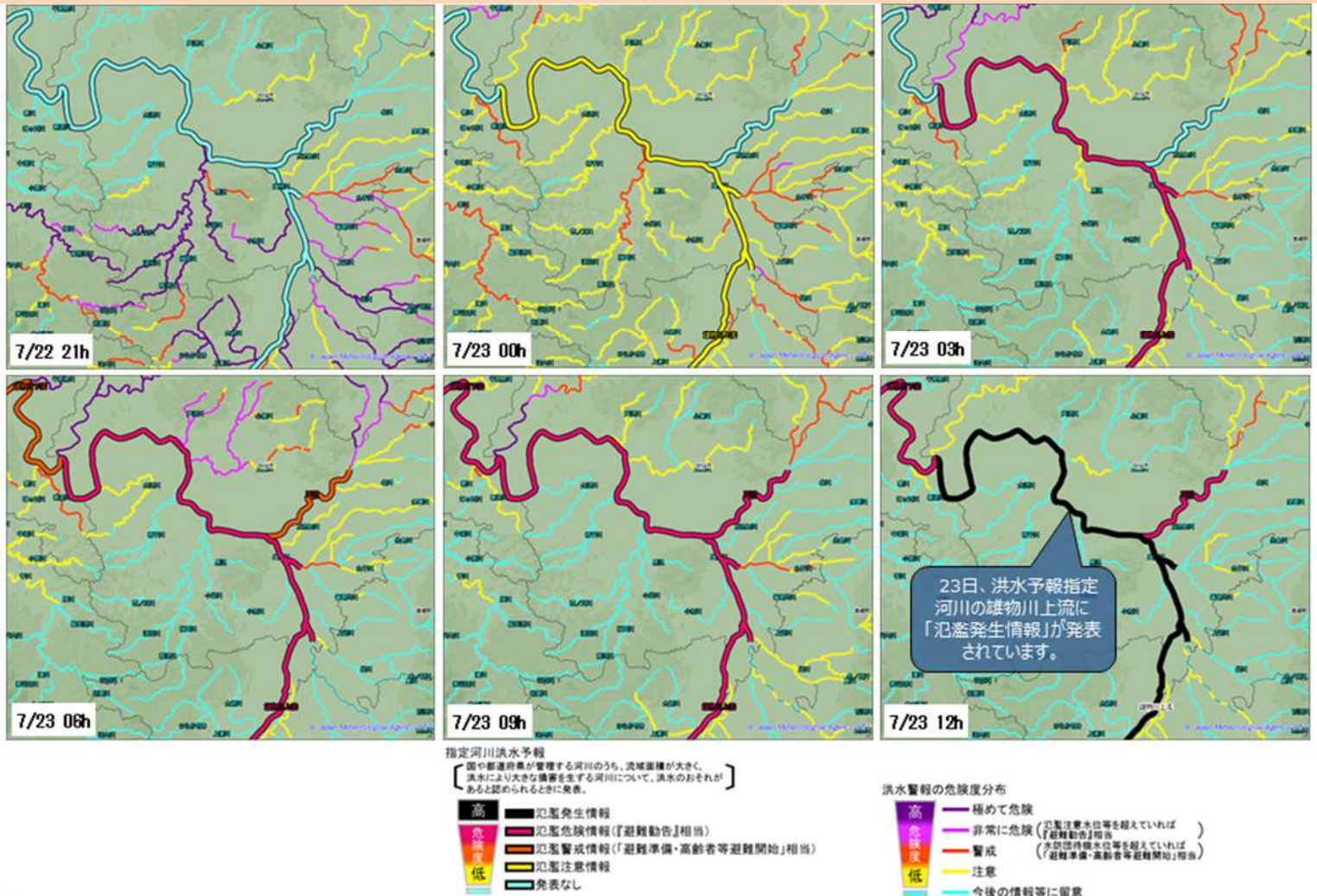
危険度分布のランドマークの設定で、地図を拡大したときに新幹線・鉄道や高速道路・一般国道を表示することができます。また、洪水警報の危険度分布では、地図を拡大すると河川名も表示されます。

気象庁HPアドレス

大雨警報（浸水害）の危険度分布 <https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/inund.html>
洪水警報の危険度分布 <https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/flood.html>

なお、防災担当者向けの「防災情報提供システム」で、主な河川の流域雨量指数の予測値（6時間先まで）を時系列で確認できます。避難情報の発令を判断される際の参考として、現地情報（水位やカメラ画像、水防団からの報告等）と合わせてご利用ください。

【参考】平成29年7月22日～23日の秋田県の、洪水警報の危険度分布



梅雨前線の影響により、秋田県内の広い範囲で断続的に非常に激しい雨が降り大雨となりました。この大雨により、雄物川や中小河川で氾濫が発生しています。